

あおぞらし 青草子

松坂まさお
政治活動報告書
2014*11発行 第14号

『青』には「すきとおる」という意味があります。
水が透きとおって（サンズイに青で）「清い」、
日が透きとおって（日に青で）「晴れ」、
心が透きとおって「情」あります。
透明度の高い『情報公開』を目指します。

『青緒』討議資料

正直がいちばん！
Honesty is the best policy.



《巻頭言》想像力

NHKの朝ドラ『花子とアン』(2014年度)は大変な人気で久々の高視聴率だったそうです。

私は『赤毛のアン』を『松坂推薦本百冊』の上位に入れているくらいのファンですので、その翻訳にあたった村岡花子さんの生涯を描いたドラマと分かって、久々にはまりました。ご覧になった方も多いのではないでしょうか。

この中で「想像の翼を広げて……」という言葉が何度も出てきました。主人公ハナ(のちの花子)は貧乏な暮らしの中で、空に浮かぶ雲をパンに見立てて、空腹を紛らわ

すのでした。本を読み出すと想像力を發揮して物語の世界に入り込んでいきます。

施設で育った赤毛のアンが、苦境の中で想像の翼を広げ明るい未来を描く姿に重なります。

「想像力」こそ人間だけの特権であり、誰にも与えられた能力ではないでしょうか。相手の立場を理解しようとすると、経験したことのない現場を乗り越えようとするとき、新しい仕組みを創造しようとするとき、想像力が力を発揮します。

今回は特に「想像力」の大切さを追求します。



読書案内コーナー

『赤毛のアン』モンゴメリ: 村岡花子訳
(新潮文庫)

今回のテーマ『想像力』にふさわしい是非読んでほしい一冊です。主人公が少女なのでどうしても少女向けの本として扱われがちですが、むしろ夢を追いかけることを忘れつつある中年のおじさんおばさんに読んでほしいものです。

私は大学生時代に読みました。

青草子
第14号
目次

●想像力（巻頭言）	1	●《情報発信》街カフェオープン	10
●読書コーナー「赤毛のアン」	1	●島原お得情報：出前講座	10
●教育委員会の仕組み	2	●島原城を活かす	11
●教育委員会不祥事	2～3	●古川市政2年目の評価	11
●逆米百俵（学生寮問題）	4～7	●「青」にまつわるお話あれこれ	12
●佐世保事件と県教委	8～9	●プロフィール・近況報告	12

教育委員会は大丈夫か？！

この夏（2014.8.7）島原市教育委員会の職員による盗撮事件が発覚。事案が事案だけに非常に個人的な問題として片付けられようとしていますが、教育長・課長も同行していた公務中に起きた事件。この対応には首をかしげる点がいくつも出てきています。

この1年間東京学生療問題に取り組んでき

て（この件は次章で詳しく報告しますが）、島原の教育委員会は大丈夫か？と心配になっています。

島原市教育委員会には、『相手の立場になって考える』という、人としてあたりまえの基本的な想像力が欠落しているとしか思えないのです。ご一緒に考えてください。

■教育委員会とは

この機会に教育委員会の仕組みを紹介しておきます。

教育委員会は市長が、民間から、議会の承認を経て選ぶ5人の教育委員からなる合議制の決定機関。委員の任期は4年間。

5人の互選で、教育委員長と教育長を選任。教育委員長は教育委員会の代表で議事の議長役。任期1年（再任可）。教育長は教育委員会の意志のもと、教育委員会事務局の長として教育行政全般をつかさどる（任期：委員任期）。

教育委員会事務局には島原市の正職員40名以上が配置。規模的には市役所の「部」に相当。教育次長は部長級。

教育部局の事務方のトップは法的には教育長ですが、実質的にはその下の教育次長ともいえます。人事権も実質的には市長部局ということになります。

だからこそ教育の独立という意味で教育委員会の果たす役割、その代表として執行部の



長に就任する教育長の役割は重要です。

その教育長候補となる教育委員は議会の承認を得るとはいえ、市長が任命するわけですから、市長と大きくかけ離れたり対立したりすることはないでしょう。

教育見識を持った委員さんたちの合議で、より質の高い教育が論議されるはずなのですが、現実には、月一回の定例会では法に定められた消化事項と報告議題が多くて、じっくり審議する時間は取られていません。

元々第三者としてスタートしていませんから、身内に甘く、非常時に機能せずむしろ有害なインペイ組織になり兼ねません。

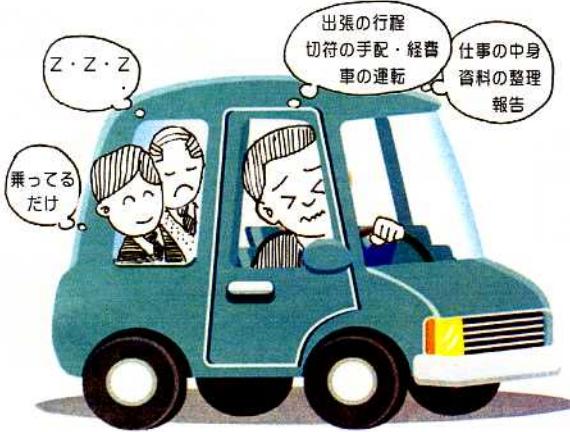
■事件の概要

事件は今年2014年5月13日、中部国際空港で起きた。1泊2日の出張を終えて搭乗手続きも終えて、出発までの待ち時間に、職員A君は盗撮の現行犯で捕まったのだそうだ。

教育長・課長・A君の3人での出張。現地では空港で手配したレンタカーで移動。運転はずっとA君。課長は4月に異動してきたば

かり、教育長は象徴的存在。出張の仕事のほとんどが専門性もあって担当者A君にかかっていた。後で分かったことだが、切符や宿の手配、本来はやるべきでない出張経費の立て替え負担までA君はさせられていた。（そのことを課長は把握していなかった。）

上司二人に搭乗券を手渡し、あとは飛行機に乗って帰るだけ。空港の売店でお土産でも



買って……と、ほっと気がゆるんだ時間帯に魔が差したのか。その行為は事実なら弁護の余地はないが、かわいそうではある。

拘束されたA君は携帯で課長に連絡を取り「レンタカーの鍵を紛失したため飛行機に乗れなくなった。先に帰ってくれ」と、虚偽の理由付けでその場をしのいだ。教育長と課長は予定通り帰ってきた。A君は翌日遅れて出勤し3人は再度顔を合わせた。

教育長も課長も、レンタカーチェーンのトラブルと認識していて、8月の報道で発覚するまで事実を把握していなかった。とのこと。

■人情味のない職場関係

教育長・課長の報告を聞いて、腑に落ちない2~3点を質問した。

「予定の切符を使えなかつたA君は、別の飛行機であれ、鉄道を乗り継いだにせよ新たな負担があったと思うが、原因がレンタカーチェーンの鍵紛失なら、本人の過失とはいえ、レンタカーは3人で利用して、運転を受け持ったばかりに遇った災難なのだから、余計な出費の3分の1ずつを教育長と課長で負担しようとかしなかつたのか?」と。

私が貧乏性なのか?真っ先に心配したのはお金のことであったが、二人の上司は私が質問するまで、余分交通費の割り勘など思いもよらなかつたとのことだった。当然トラブルの経緯についても「どうだった?」と聞かなかつたらしい。

ふつう聞くでしょ!

「結局鍵は見つかったとね?」とか

「どうやって帰って来たとね?」とか、そして、「君ばかりに運転させて、災難だつたね。せめて余分にかかった費用は割り勘にしよう。」など、言うでしょ!なんと人情味のない職場なのだろう!

■警察への対応(公印無断使用)

報道では『島原市教育委員会職員が…』となっているが、愛知県警は本人の自白だけで身分確定をするのか?事前に問い合わせはなかつたのか?

報道直前、テレビ局から問い合わせがあるまで、事件のことには全く気づかなかつたと言つてはいましたが、7月16日に調書の内容の確認のために、愛知県警中部空港署から、内容証明付きの「親展」扱いで、教育委員会社会教育課長宛で身分確認の郵便が届いていたと白状しました。

課長は「ああ、あのレンタカーチェーンの件だろ」と判断し、そのまま開封もせずA君に手渡し、A君が勝手に教育長の決済がなければ押すことの出来ない公印を押して処理をしていた。との報告。

普通じゃない!(と、私は思います。)警察から、内容証明付きの親展の郵便を受け取つて、中身も見ずに、担当A君にホイと渡す。「あれっ何だろ?」と思わなかつたのか?基本的な人間の想像力はあるのか?

■金銭感覚の欠落

そしてお金のこと。この度の出張は「島原城復元50周年事業特別会計」で扱い、精算払いとなつていた。こういう場合「前渡金」といつて、立替金を予算化する。教育長や課長が決済すればすぐに出来ることなのに、A君は、20万円近い出張費用を同僚に借金して切符等を手配していたのです。

出張の金の準備は大丈夫か?と問いかけるどころか、黙つて座つていりや、行って帰つて来られると思っているのでしょうか。これは公務員全体に言えることですが、金銭感覚が市民とかけ離れてゐます。

逆米百俵

目先の空腹か 将来への投資か

■米百俵と稽古館

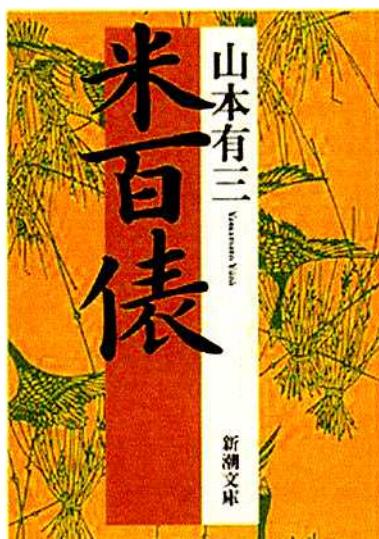
皆さんは、『米百俵』のお話をご存じでしょうか。幕末、厳しい窮乏の中にあった長岡藩に、救援のための米百俵が届けられました。米百俵は、当座をしのぐために使ったのでは数日でなくなってしまいます。

しかし当時の指導者（小林虎三郎）は、米百俵を将来の千俵、万俵として活かすため、明日の人づくりのための学校設立資金に使いました。その結果、設立された学校は、後に多くの人材を育て上げることになりました。

『米百俵の精神』（人材育成のための教育こそが大切という考え方）は今も長岡の人たちに引き継がれています。

では皆さん島原藩の『稽古館』の話はご存じでしょうか。今から二百年あまり前、「島原大変肥後迷惑」と言われた大噴火津波災害が、我が島原がありました。この未曾有の被害を前にして、当時の指導者は目先の復興ではなく、復興を支える人材育成が大事と、災害の翌年には藩校『稽古館』を作ったのでした。

長岡藩より以前に、島原はそんな素晴らしい歴史を持っていいるのです。米百俵はのちにドラマ化されたりして有名になりましたが、島原の稽古館だって全く引けをとりません。



■島原市東京学生寮

現在、廃止になったものの（行政手続条例違反などで）裁判になっている『島原市東京学生寮』ですが、その創設の経緯を説明しておきます。

この建物は戦前、ゼロ戦を作る中島飛行機製作所の女工さんたちの寮として建てされました。こうした工場があったため、武藏野市は東京大空襲においても大きな被害を受けています。しかしその戦禍にも生き残り、3年前の東日本震災においても震度5弱に耐えて、建物は現存しています。

その後企業の社員寮となり、長崎県が引き取って学生寮として運営してきました。

長崎県は赤字などを理由に学生寮を投げ出しました。その時（昭和38年）我が島原市は、なんと市単独でこの学生寮を引き受けたのでした。ここに島原に連綿と続く稽古館の精神：島原版米百俵の精神があったのです。

当時はまだ建物取得だけだったのですが、のちにその敷地も島原市の所有として（昭和47年）名実ともに島原市東京学生寮となり多くの人材を世に送り出してきました。

近年も例年定員を超える応募の中で困窮の度合いに応じて優秀な学生が入寮を許可され恩恵を受けていたのでした。

逆米百俵

■放置された三年間

実は東日本震災が起こる以前から、教育委員会事務方は老朽化が進む学生寮を大幅改修するために改修費用を見積もっていました。

早急な改修の必要性を説くために耐震診断も添えたのでした。ちょうどその診断が3年前の震災に重なったのでした。

震災の震度5弱には耐えたものの、壁にひびが入るなど、急ぐ要素が増えたので、すぐにも予算付けがされ、本格設計に入るものと思われていました。

実際にその春以降に入寮を許可された学生保護者に対しては、工事のため夏休みなど2ヶ月ほど一時的に寮を出てもらうかもしれないから心積もりするよう説明があつていたのでした。

しかしその後三年間島原市（教育委員会）は全く何も手をつけませんでした。早急な耐震補強が必要との診断を受けておりながら、スジカイをいれるなどの応急措置もせず、まさにほつたらかしでした。

その折のY市長は就任前長崎県の教育長をやっていたのですから、教育行政の進め方は熟知していたはずです。市長として予算編成権も握っているのだから、市教育長（自分が指名した教育長なのだから）に相談して教育委員会の同意を得れば、すぐにでも改修できたのでした。

残念ながら長崎県の教育委員会は伝統的に哲学がありません。県教委出身のY市長はカネのことを考えたのか、学生寮には手をつけませんでした。

理屈を言えば、学生寮の運営は教育委員会に主導権があるのだから、「学生の安全確保のために予算をつけるべき。」として市長部

局に予算要求しなければならなかつたが、当時の教育委員会は何もしなかつたのでした。

実は耐震指標は判断の目安程度で、即刻避難しなさいとか改修しなければならないという義務強制力はなく、現教育委員会の声高に危険を叫ぶ熱狂は、廃止を言つてしまつものだからひっこみが付かず無理やり言つてゐるとしか思えません。

であるならば、耐震YS値0.31の島原市役所は即刻業務を停止しなければなりません。

■何のための教育委員会？！

教育は長い目で考えなくてはならないし、政治に左右されではありません。だからこそ教育委員会があり、教育行政だけは市長が直接介入できない仕組みになっています。

市長には課題が多く、福祉もあれば、様々な施設整備、道のでこぼこ修繕もあります。カネはいくらあっても足りません。ともすると文化・教育予算は削られてしまいかねません。教育は百年の大計、効果がすぐには見えないからです。

だからこそ、まさに『米百俵の精神』、危機の時代にこそ絶対に教育予算は削らせないぞ！という哲学が教育委員会には必要です。

せっかく島原が持っている貴重な教育財産『東京学生寮』、多くの利用者があって、役に立っている。喫緊の課題は耐震問題。ならば早急に安全を確保せよと市長に予算要求をするのが教育委員会ではないのでしょうか。

教育委員会が率先して「寮なんてカネがかかるから売り払ってしまいましょう。」とは何事でしょう！私はあきれてモノが言えません。まさに『逆・米百俵』です。

(次ページへ続く)

逆・米百俵

相手の立場に立って考える、普通の想像力すら無いのか！

教育委員会の仕事はますます多岐にわたり忙しくなっています。文部科学省や県教委の指示に従って絶対にこなさなければならない義務的仕事も多い。しかしこれらはルール通り、指示通りやれば楽な仕事です。

その点、島原独自の文化財保護とか、まさにこのたびの東京学生寮問題は島原独自のモノ、前例はありません。自分で考え自分で処理しなければなりません。だからこそやりがいがあるし不退転の哲学が必要なのです。

そんな中で島原市教育委員会はあっさり『逆・米百俵』をやってのけたのです。事務方の用意した資料に寮を廃止したい（面倒な仕事はやりたくない）という誘導があったにせよ、5人の英知が導いた結論は学生たちの修学の可能性をつぶし、現在就学している学生に不利益を強要することになったのです。

学生の命・安全を最優先に考えたという錦の御旗を掲げ、実は万一の地震災害等で負わなければならぬ責任を回避したいが故に、学生の修学機会を奪ったのです。

現在入寮許可をしている学生の安全確保を放棄して、「寮から追い出しが安全確保」とする暴挙に及びました。『学生寮設置条例』の目的（学生に修学の支援をする目的）を放棄したのです。

■教育行政に従事する誇りはないのか？

元々市役所の予算は営利ではないので、全てが赤字です。だからこそ自分たちが使っている税金は必要なのだという自負と誇りが必要なのです。並みいる予算要求を制して『教育予算』を獲得するには並々ならぬ努力が必要です。

タダでさえ苦労が報われない教育行政で、安全策を講じて改修しても、今後ずっと寮運営は（相手が生身の人間だけに）苦労がつき

まといます。いっそよその自治体みたいに寮なんて無ければ良いのに、という目先の本音など聞きたくもありません。しかしそれが今回の寮廃止に至った教育委員会と事務方の本心なのでしょう。

情けない！これが島原市教育委員会の現状です。誇りも哲学もない。楽な仕事だけして、責任からは逃げる。

公務員は寝食忘れて市民のために尽くして働いても、きちんと自分の給与は保障されています。それが公務員の良さだったはず。誇りを持たず、保身と楽な道しか考えない職員など島原市には不要です。心当たりのある職員は即刻辞職してもらいたいものです。

■輪をかけてひどい廃止手続き

教育委員会の審議は実にお粗末。『学生寮の意義』など根本問題はほとんど語られませんでした。（議会も同様）

ことさら強調されたのは「耐震値が低く危険な建物なので（赤字でもあることだし）この際廃止しよう。」「今大きな地震で倒壊したら、命に関わるから、現入寮生も即刻外に出そう。」というものでした。「万一のこと（倒壊して命に関わること）があったら、たたかれますぞ！」と、即刻廃止を決めました。

東京学生寮寮費より安いまたは同程度のアパートがあるでしょうか、あるとしたらそれこそ震度4でも倒れるような劣悪アパートしかないでしょう。

「教育委員会の責任の及ばないところで死んでくれ」に等しい仕打ちでした。

その論議の際、「寮を出たら、予定していた以上にお金がかかり、肝心の学業が続けられない子弟も出るのではないか？」という議論がされていないのです。

逆米百俵

途中退寮者には家賃の一部補助が用意されていると、後のニュースを聞かれた方もいるでしょうが、それは議会から指摘を受けて始めて検討されたのでした。

「危険な場所から一刻も早く出すことが一番大切。」の一点張り。安全な場所を準備するとかそのための費用を捻出するなど一切思いつきもしなかったのでした。

何故か？教育委員の皆さんには困窮者の立場になって考える、普通の想像力が欠落しているのです。成功体験しか持たない偉い人たちは、ほどほどのお金持ちなので、苦学生の気持ちその親の苦労に考えが及ばないのでしょう。

（入寮を許可しておきながら、行政の都合で後で方針を変えて出てもらうのに）「危険な寮に子供を預ける親の気が知れない」とも取れる「うちなら自分の子供をそんな危険な寮には入れない」との発言。

悲しいのは、教育委員の皆さん、全く悪意はなく真面目に（富裕者の論理で）会議に臨んでいるのです。こんな教育委員さんたちに、今6人に一人の子供が貧困のために学業がおろそかになっている実情が分かるのでしょうか。

この情け容赦ない退寮勧告を言い渡された保護者が「子供がせっかく志を持って進学したのに、今寮を追い出されたら、学業を諦めてもらわなきゃならないかも知れない。」と訴えた悲痛な叫びを聞いて、教育委員さんは何も感じなかつたのでしょうか？

■行政手続条例に違反している。

常識で考えて、今回の一連の手続きは間違っています。（議会でもそう訴えましたが、

少数否定されました。）後で分かったのですが、実は一連の手続きは『違法』だったのでした。

行政がいったん許可した利益を取り消す『不利益処分』をする際には、行政手続条例に従わねばならなかったのです。

心ある弁護士が言いました。「え～、島原市は聴聞会も開かず、やっちゃったの？！」

聴聞会というのは、本条例の規定にある手続きで不利益処分する相手の意見を必ず聞かなければならないことで、普通の法律家には常識事項。お粗末です。

■裁判の行方と学生寮の今後

古川市長には英断が求められます。教育委員会は『まず安全を』という善意だったかも知れませんが、結果不利益を強要しています。

想像力が働かなかつたばかりに、途中「あれっ、ちょっと待てよ」と気づいたとき、立ち止まることが出来なかつたことを真剣に反省してほしいものです。

裁判の結果はどうなるか分かりませんが、『相手の立場に立って考える』ことを教育委員会（及び事務方）には望みます。

『島原市東京学生寮』に引き継がれてきた米百俵の精神、稽古館の精神は、まだ島原市民の中に生き続けていると私は信じています。今後どのような具体的形（教育財産）になつて実現するでしょうか。

この機会に本気で教育のことを考えて欲しいものです。我々市民も自分のこととして、考えていきたいですね。

『佐世保同級生殺人』は、防げなかったのか？

■経験く想像力

経験から生まれた教訓や智恵からは学ぶモノがたくさんあります。しかし経験には個人差もあり万能ではありません。

相手の話を聞くとき、「俺は経験がないから」と突き放してしまえばそこで終わりです。初めて聞くことからを調べ、現場に足を運び、相手の経験を追体験する。鍵はまさに『想像力』です。想像力で経験をするのです。

人間には想像力があるから、戦争経験が無くとも戦争の悲惨を知り、書物を通して、歴史上の経験を自分の糧に出来るのです。

■あえて経験を語る

私は、これまであまり自分の経験は語っていませんでした。しかし今回どうしてもの思いで教職経験を持ち出しました。

私はこの9月議会、佐世保の事件を念頭に冒頭次のように切り出しました。

正直がいちばん、松坂昌應です。実は私、3年間ですが教職の経験があります。故あってその後は商店街の中で写真館を営み、現在は市会議員も兼務させていただいています。

関東の中高一貫校で、初年度は高2、5年生と言っていましたが、その副担任。次の年度は5年の担任。3年目は4年すなわち高校1年生の担任を受け持りました。

今でもその頃のことを思い出すことがあります。私が、教育問題にうるさいのはこうした経験もですが、もともと志が教育にあったからです。

この度の佐世保で起きた痛ましい事件は私にとってとてもヒトごとにはできません。現場の先生は、「なぜ防げなかったのか」とさぞかし無念だろうと思います。先生も生徒も人間ですので「絶対」も「完璧」もありません。一人の教師の力には限界があります。時代も変わりました。

しかし、30年前の当時の現場感覚からすると、私のような熱血だけのバランス感覚を欠いた半人前教師でも、同僚教師たちや周りの人間たちとの連携で、この一人の命、一人の心は救えたのではないかと思えるんです。私の知っている教職員の現場なら救えたと感じているんです。

その一方で今回の報道に接し、今の長崎県、今の島原では防げないのでないか？という暗澹たる思いになるのです。島原の教育は大丈夫なのか！？と……

私がここまで自分の経験を基に断言口調を使ったのは初めてかもしれません。逆に言えば、今の長崎県や島原の教育委員会に対して怒りにも似た絶望感を感じているのであります。

■佐世保事件の検証

色々な分析調査が盛んですが、『殺人を止められたので

はないか』という一点に絞つて考察したいと思います。

■思春期の教育

『自分の人生とは？』と考え始めるのはいつ頃でしょうか。一般的に女子の方がやや早いのですが中学生から高校生にかけてがその時期だと言われています。

高校全入時代になろうとしている現在、この大切な思春期の子供たちを中・高を連続してとらえてはどうかという教育論があります。中高一貫教育です。

私は当初教員を志して、大学を卒業すると茨城県の筑波研究学園都市にある『茗渓（めいけい）学園』で国語科の教員として奉職しました。茗渓学園は、東京教育大学（現筑波大）の同窓会（茗渓会）が『理想の教育』を目指して設立した中高一貫校です。私が勤めた時期は開校三年目の草創期でした。その経験を通して、冒頭の一般質問の言葉が出てくるわけです。

■少年法で学校名隠し

『少年法』は未成年の加害者が更生しやすいように、本人の氏名・写真などを公表せず、本人特定がされないよう配慮することです。

2014年8月、事件の翌日報道各社は競うように被害少女の名前と写真を公表する一方で加害少女は県立高校1年生とだけ。

私は一新聞社に「なぜ学校名を出さないのか？」と問う

中高一貫教育だったら、止められたはず！

たら、少年法によって、本人特定のヒントになるので学校名は公表していない。との答えでした。「10年前の大久保小学校事件は学校名が出ていたではないか？」と問うと、返事に困っていました。

あれだけ大々的に同級生被害少女の名前と写真をデカデカと連日報道しながら（これだけ加害者特定につながる情報もないだろう！）、学校名だけ伏せるなど説明になってしまふ。

情報出所の佐世保市教委と長崎県教委の見解の違いのようです。

残念なことにこの大きな事件は残忍すぎて、特殊な例外的事件として片付けられようとしています。

この子の問題行動は小学生時代（給食異物混入）にあつたが、その後表面化した事件はなく（中学時代の動物解剖等は周りに危害がなかった）高校に入学後は3～4日しか登校しておらず、高校での指導は限界があった。仕方がないかった。自殺してしまった父親など家庭と本人に問題があった。と。

まさに中高の狭間で起きた悲劇です。多くの市民の常識的な認識では中高の連続性は大きく途切れています。

■中高一貫教育だったら

中学・高校が一つの敷地・校舎の中にあって、思春期の子供たちの成長過程を連続し

て見守ることが出来ていればこの悲劇は防げたのではないか？

調べていて、愕然としました。どうやらこの佐世保の事件は県立の中高一貫学校で起きたらしいのであります。

県教委に確認すると、佐世保市に中高一貫校は一つしか無く、中高一貫教育校であると公表することは、その学校が特定されることになって少年法に反するのだ（※）といいます。

※これは嘘。少年法に反しないことは大久保小学校名が出来ることで証明済み。

少年法は学校名公表を禁じてはいません。

それでも県教委が逃げ回るなら、その学校が『県立の中高一貫校』だった場合ということで、検証を続けようと思ひます。

■『中高一貫校』の場合

ある意味一番中高の狭間での連携が取りやすい環境だったはず、それでも凶行は止められなかったのか？一校しかないのであればまさにその学校での措置を一つずつ検証し、一般化普遍化できる事をきちんと整理しなければなりません。

大学受験に主眼を置きすぎて、学習効率ばかりに気を取られ、肝心の生徒一人ひとりの心の成長の見守りを忘れていたのではないか。

中高がつながることで一番こうした事件を防ぎやすかつたはずの学校で、起こったと

いうことは、根本的に『中高一貫』の意味を思い違いしていたのではないか？

私が属していた茗渓学園は、まさにそのことを真剣に考えていましたし、今も追求しています。引き比べて、長崎県が県内で初めて導入した県立の中高一貫校は、重大な欠陥があったのではないかでしょうか。

■責任を逃げる長崎県教委

8月の末、長崎県教育委員会がこの事件の中間報告をした際、『小学校時代の問題行動が中学までは引き継がれていたが、高校には申達されていなかった。』ことを殊更に強調していることを確認して、私は怒り心頭に発しました。（中高一貫の場合なら）

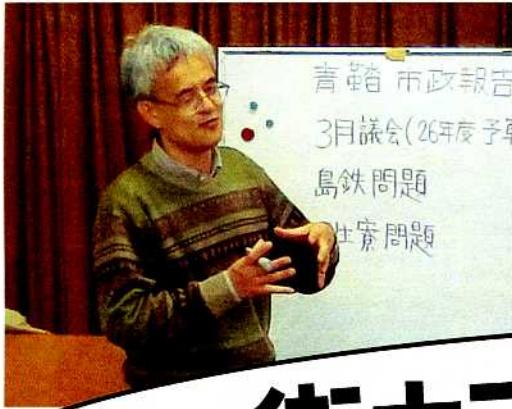
このことは虚偽です。市立の中学校が別の場所にある県立高校に渡す調書作成とは違うのですから。

中学は市立て、高校は県立なのでつながりにくいという世間常識を巧みに織り込んだインペイ工作に等しい言い訳です。

真剣に教育に向き合わないどころか、責任逃れに汲々としている。悲しいかなこの体质は島原市教育委員会にも共通します。

絶望的に道は遠いけれど、私は諦めずに教育改革に力を入れたいと思います。

そんな難しいことではないんです。相手の立場になって考えるふつうの『想像力』の問題なのです。



街カフェ

松坂まさお市政報告&市民トーク

毎月1回
開催中！



情報の発信と共有

松坂は、毎月『まちカフェ』と名付けた集会を開いています。原則として毎月第1土曜日の夜、森岳公民館で開催しています。

お茶を飲みながら、市政報告を聞いていただき、市民みなさまの意見を自由に出し合って、一緒に考えようというもの。誰でもお気軽にどうぞ。

多数決が原則の世界なので、正しくとも新しい事、これまでの慣例を破る事は中々認められません。多くの場合事実さえ伝わっていないことが多いのです。情報がきちんと届き共有されれば、正義は必ず通るはず。市民の良識を信じて、情報発信を続けます。

報告会だけでなく、報告書『青草子』の配布、『インターネットによる情報発信』も続けています（ブログ『新・土佐日記』はほぼ毎日更新）。Facebookも始めました。

電話もお気楽にどうぞ。090-2587-4622
よろず相談常時受付中です。

島原 お 得 情報

ひとづくり出前講座

ちょっとした勉強会や調べ物のきっかけ作りに、市役所が講師を派遣してくれます。市民が賢くなり、対応職員の研鑽にもなる素晴らしい制度。無料。

今度、街カフェでもこの制度を活用して組み合わせてみようと考えています。

公民館でもいいけど自宅にも来てくれます。（詳しくは市役所へ）

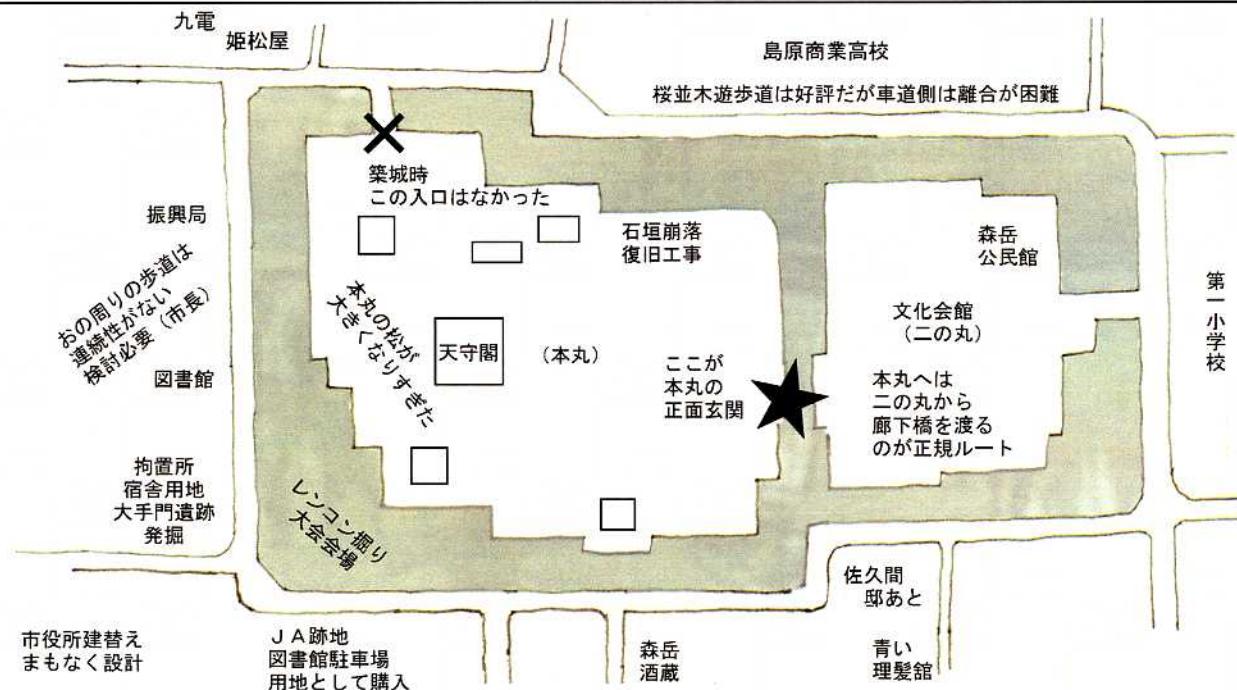
島原市議会の議員数は19

島原市議会は現在定数21人ですが、次回2015年の改選時から定数は19人になります。

監視項目は増える一方ですが、人口減少の実情にあわせて、島原市議会は定数を削減しました。

島原城を活かす

数年後に迫る島原城築城400周年
島原城をめぐる最近の話題あれこれ



2012/6の石垣崩落は太りすぎた松や透水性のない駐車場や建物の問題を浮き彫りに。歴史に忠実な修復を目指す中で、国宝級とも言える城郭の価値が再評価されています。

図書館横の拘置所用地から大手門の遺跡が出土。図書館駐車場用地として購入したJA跡地をうまく活用してこの遺跡も活かしたい

ものです。JA跡地には湧水もあります。

今年は天守閣復元50周年、数年後に築城400周年を迎える島原城。まもなく始まる市役所の設計、島原城との調和が求められています。

森岳商店街は上図★印の場所に『幻の廊下橋』を復元しようと考えています。(^-^)v

古川市政と島原市議会：古川市政2年目の評価

長年続いた役人出身市長から、民間出身の古川隆三郎市長が誕生して2年。私は、今回の東京学生寮の不手際を除けばほぼ第点での折り返しターンだと評価しています。

ただし、現在裁判に訴えられている学生寮問題は対応次第で命取りになると思っていました。過ちを改むるにはばかる事なかれ。

ご存じのように、市長選挙では、（私は古川支持を表明しましたが、）大多数の議員が当時の現職に付いて、いわば議会多数派と反目（はんめ）の市長が誕生し、当時の役所執行部は前政権の布陣でしたので、その船出は苦労の連続だったようです。

議会多数派による嫌がらせともとれる議論もありました。（多数派は正論と言うでしょ

うが）敬老入浴券期間延長問題など、島原市議会の質の低さを暴露しました。

新市長はあいついで、議会の議決は必要のない運用面で、無駄な見積書提出の省略・旅費の実費払い（これまで実費以上の支給がなされていた）など民間目線の改革に手をつけました。

議会多数派、政党や財界の各種団体などのいわゆる有力者たちの支援を受けず、まさに草の根市民の票で勝ち上がった古川市長！最大の強みはしがらみがないこと。「ダメなものはダメ！」と言える立場です。

争いを好まない全方位温厚市長、その人なつこさは最大の武器ですが、肝心な時には毅然とダメなものはダメ！と言ってください。



青

にまつわる お話あれこれ

■春の色は青

春が青、夏が赤、秋が白、冬が黒（玄）です。

■透き通る『青』

表紙タイトルでも解説していますが「青」には透き通るという意味があります。

■『青草子』由来

実は私、教員時代（国語の教師でしたから）清少納言の『枕草子』にあやかって、『青草子』を学級通信のタイトルに採用したのでした。「草子」は綴じ本の意。

教員を志願した当時の「志」は今の市議松坂に引き継がれています。

■マザーテレサのサリーの青

私の敬愛するマザーテレサはサリーという頭巾をかぶっていますが、そのサリーに縁どられたラインは鮮やかな青です。

■会派名『青鞆』（せいとう）由来

ここまで来るとかなりこじつけですが、市議会の会派名に無理やり「青」を含む名前を付けた感じです。『青鞆』は女性の地位向上を目指した、平塚雷鳥らの結社名でありその機関誌名です。花子とアンの村岡花子さんらも関わっていたようです。

元はフランスの女性地位向上を目指した人たちが青いストッキングを着用していたことに由来します。

「青鞆」ってなんだろう？と考えることをきっかけに男中心の政治に女性の視点・考え方反映されることを願っています。

発行責任者：松坂昌應（青鞆）

〒855-0045 島原市上の町927-14

電話：0957-62-4414

携帯：090-2587-4622

メール：news@masao-m.com

H P : [http://masao-m.com/](http://masao-m.com)

松坂まさおですぐ検索できます

●プロフィール

松坂昌應（まつさかまさお）

昭和29年4月28日

島原市弁天町生まれ

島原第一小学校

ボーイスカウト活動（～高校まで）

島原第一中学校

島原高校（25回卒）

慶應義塾大学文学部（国文学）卒

茗渓学園中学高校（つくば市）教諭

帰郷後、現在地島原市上の町に在住

わかば写真館経営：店舗住宅併用

森岳商店街会長

森岳まちづくりの会事務局長

がんばスタンブ[協]理事

商工会議所青年部OB

島原市議会議員（2003年～）三期め

産業建設委員会副委員長

無所属市民派

歩行者優先コンパクトなまちづくり

脱原発・再稼働反対

諫早湾は開門調査をするべし

尊敬する人：マザーテレサ

家族：四人家族（妻・下の娘と同居）

上の娘は福岡在住。両親は既に他界

近況報告（あとがき 2014/11）

今回の報告は教育委員会問題に多くの紙面を割きました。私がやらなければ！という使命感に燃えて報告しました。

青草子のお届けがずいぶん遅くなり申し訳ありませんでした。

実はこの二年間ほど足の調子が悪く、皆様のそばから遠のきがちでした。最近歩行にも支障を来すようになりましたので、手術を受けました。まもなく『歩く松坂』が復活しますのでどうぞ一声かけてください。

皆様も是非健康第一でお過ごしください。